

令和元年度 文京区立礫川小学校 授業改善推進プラン

＜ 1 年 ＞

教科	現状分析	具体的な授業改善策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことが好きで、進んで話す児童が多いが、事柄を文章の形で話したり、順序立てて話したり、丁寧な言葉遣いで話したりすることに課題がある。また、大事なことを落とさずに聞くことに課題が見られる児童が、数名いる。 ・自分の経験したことを書くことができる。文章の中で助詞「へ」「を」「は」を正しく使うこと、句読点を適切に使うこと、順序に沿って簡単な構成で書くことが、今後の課題である。 ・登場人物の気持ちや場面の様子を考え、想像を広げながら読むことができる。また、学習内容を広げたり、楽しんだりするために、進んで本を読むこともできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞くスキル」や教科書を使って、音読や発声の練習をする。 ・2学期以降は、聞く学習を重点化する。スピーチを取り入れることで、聞き取ったことを聞き返したり、相手に質問したりする場を設定する。 ・短文作りや簡単な日記を書かせ、書く意欲をもたせると共に、文を書く経験を増やす。 ・文を読んだり書いたりさせ、主語と述語で書く文章に慣れさせる。 ・登場人物の気持ちや行動にサイドラインを引いたり、想像を広げて吹き出しや手紙を書いたりして、読みを深める活動を設定する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多い。問題の解き方等の説明を進んでしようとする児童が多いが、自分の考え方を発表することに対しては、躊躇する児童がいる。 ・ブロックや図を用いて、加法や減法の仕方を考えることができた。 ・加法・減法の計算は、おおよそ定着しているが、数の合成、分解を活用した加法・減法の理解に差がある。特に減法では、指を使って計算している児童が、1割程見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示の仕方を工夫したり、個別指導を取り入れたりしながら算数への関心を高める。 ・絵や図、文などを使い、様々な考え方ができるようにノート指導をすると共に、発表を通した自分の考え方を友達に分かりやすく説明させる。 ・具体物を操作する活動などを学習に取り入れ、視覚的にも理解しやすい授業を行う。さらに、宿題と共に家庭学習を通して、合成・分解の反復学習を継続して行い、理解の定着を図る。 ・ドリルタイムなどを活用し、繰り返し計算の練習に取り組みせる。 ・2人組や少人数など、学習形態を工夫し、話し合う活動を通して、自分の考えを説明したり、相手の考えに気付いたりできるようにさせる。

<p>生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や植物の観察等に関心をもって取り組むことができた。 ・学校探検で見付けたことや、植物の成長や変化の様子など、活動や体験について、自分なりに表現することができる。 ・植物の観察や学校探検等の活動や体験をしながら、自分と身近な環境や人、自然とかかわりに対して、いろいろな見方やよさに気付いていった。気付きの質を高めることが、今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関心をもったり、自分の生活について考えさせたりする場を設け、活動や体験をさせる。 ・活動ごとにグループを作って、ワークシートをお互いに見合ったり、全員で話し合ったりさせる。自分の気持ちや気付いたことについての表現を広げたり深めたりさせる。 ・見付ける、比べる、例えるなどの多様な学習活動を授業に取り入れ、気付きの質を高める。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の歌声や発音に気を付けて歌う学習や、音遊びに進んで取り組んだ。 ・リズムの模倣や、拍によってリズムを打つことを通して、工夫して音遊びをした。 ・鍵盤ハーモニカについては、初めて触れる児童が多い。基本的な指の使い方と共に、息づかい（タンギング）に課題がある。 ・音楽に合わせて自由に体を動かしたり、拍に乗ってリズムを手で打ったりして、楽しく聴くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童が興味・関心をもって取り組み、音楽活動をしているので、さらに楽しい音楽の授業を展開していく。 ・体や楽器を使って、リズム打ちに慣れさせ、リズム感を育てていく。 ・鍵盤ハーモニカについては、丁寧に指の使い方や息づかい（タンギング）を指導し、音色のよさや面白さに気付かせ、音を合わせて演奏する喜びを味わわせる。 ・児童が親しみやすい楽曲を選び、気付いたことや感じ取ったことを言葉で表すようにさせる。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで表したり、見たりして、造形活動を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は造形遊びを多く取り入れ、感覚や気持ちを生かしながらかついたり、体全体を働かせ、表し方を生み出したりすることにより、創造的な技能を育成する。また、納得するまで作り直したり、試行錯誤しながら表す過程を重視することで、発想や構想の能力を育てる。 ・鑑賞は意欲や関心を重視し、見たり触ったりしたときの素直な驚きや喜びを大切にする。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に運動に取り組むことができるが、個々に苦手な運動が見られる。 ・ほとんどの児童が、きまりを守って、運動にすずんで取り組むことができる。しかし、勝ち負けにこだわり、皆で仲よく、楽しく運動することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、コーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な体の動き方を経験させる。 ・どの子も運動に取り組みやすくするために、場の工夫やペア学習などスモールステップで課題を提示する。 ・学習カードなどを用いて、できたことを視覚化する。また、友達と教え合ったり、認め合ったりする場を用意して、達成感を味わえるようにする。 ・いろいろな運動遊びを取り入れて、友達のよい動きを見付ける声掛けをし、運動遊びの行い方や、遊び方を工夫させる。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に活用できるよう、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりすることが発達段階として難しい。 ・授業の中での発言・表記にみられる理解を、日常生活での実践に結び付けていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳で学習した道徳的価値や考えを実際の生活の場面でも生かせるように、引き続き、日常とのつながりをもたせた指導を工夫していく。 ・自分の考えを基に、書いたり、話し合ったりする機会を授業の中に多く取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。